

会報 安曇野教育

「安曇野の子どもを語る会」 報告

発行所 安曇野市教育会 発行日 平成29年1月12日
 発行人 大島 春彦 題字 川田 殖
 編集 会報委員会・安曇野の子どもを語る会担当常任委員、幹事

安曇野の子どもを語る会

十月十五日(土)、南安曇教育文化会館で「安曇野の子どもを語る会」が開かれた。はじめに、安曇野市教育委員会教育委員長の唐木博夫先生が「安曇野には安曇野の文化として伝えられてきたものがある。例えば、碌山、光太郎、智恵子といえば自然とつながりがわかるが、今の若い人たちはそれを知らない。伝えるべきことを伝えてきたのか。我々は、子どもたちにもつと伝えたほうがよいのではないか」と話された。

その後、細萱稔教育会常任委員が趣旨説明を行った。今年度の討議の柱は、「安曇野で育つ児童・生徒の素晴らしさや課題を見つめ、学校・家庭・地域の教育力をどう高めていったらよいか。子どもたちとメディアのよりよい関係」である。

豊科北中学校区で行ったアンケートの結果からは、「低学年で多かった外遊びが高学年になると減り、ゲーム、ネットが増える。インターネットの閲覧時間に関して保護者と子どもとの意識のずれがある」ということがわかった。また、豊科東小学校の取り組みとして「アウトメディア」へのチャレンジが紹介された。子どもたちを

電子メディアから完全に切り離すことはできないし、むしろうまく使いこなす力も求められるが、電子メディアの弊害から子どもたちを守り、親子共に電子メディアと上手につき合い、地域ぐるみで子どもたちの健全育成を図るといふ観点から話し合うことが確認され、五つの分散会に分かれて、話し合いが行われた。



最後の全体会では、大島春彦教育会会長が、「アウトメディアの取り組み、親や家庭のあり方についてなど本音で語ってもらった。この熱意こそが子どもたちを育てる原動力になる。今日の内容については、市内の全家庭にも伝えたい」と会をまとめた。

趣旨説明

豊科東小学校 細萱 稔

I 趣旨

青少年の健全育成をはかっていくために、学校・各団体・諸機関が連携をとりながら、学校・家庭・地域の教育力をどう高めていったらよいかについて考え合う機会とする。

II 討議の柱

テレビやビデオを含めた電子メディアの弊害から子どもたちを守り、親子ともに電子メディアと上手につきあうことには。

III 基調提案

1 私が目にした事例から

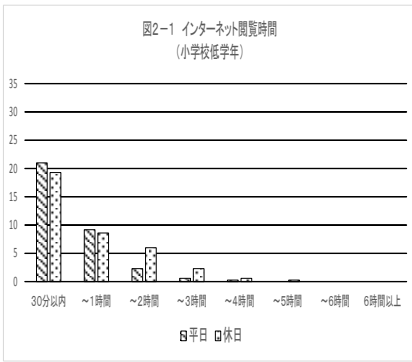
私が家族で食事に行ったとき、隣のテーブルに親子が来た。お父さんとお母さん、三才くらいの男の子と、まだ座れない赤ちゃんの四人。板敷きの小上がりのような席で、お母さんは赤ちゃんを床に寝かせると、スマートフォンを操作し始めた。お父さんもはじめからスマ

ートフォン。それぞれ無言でスマートフォン画面を見つめる両親と、赤ちゃんをあやす小さな男の子という、異様な光景だった。

子どもとメディアの関係という点、とかく子どもにとってのメディアの害悪が取り上げられますが、大人を含めたメディアとのつきあい方を考えなければならぬと思われました。

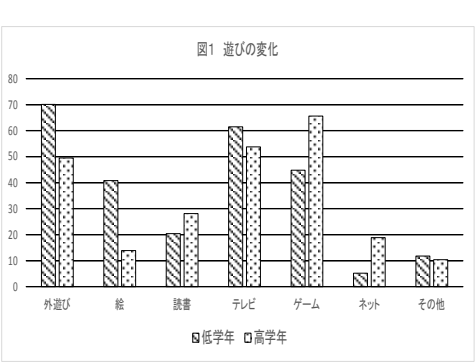
2 豊科北中学校区 地域学校保健委員会の取組

平成二十六年から豊科北中、豊科北小、豊科東小の三校で地域学校保健委員会を立ち上げ、地域全体で子どもたちの成長を見守り、健康課題について一緒に考える取組を始めました。昨年度、三校で児童生徒と保護者にアンケートをとり、子どもを取り巻くメディアについての実態を探りました。その中から、いくつかの項目について紹介します。



一時間を超えるところで平日より休日が多くなります。小学生は概ね二時間以内ですが中学生になると二〜三時間が多くなります。

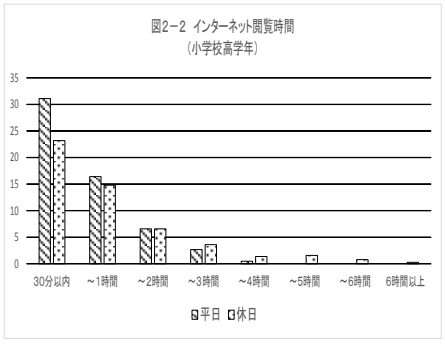
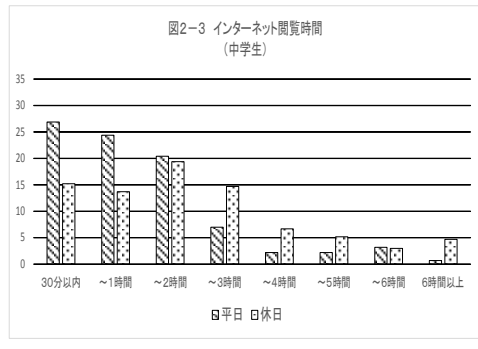
(2) インターネットを閲覧する時間(図2 1)〜3)



(1) 遊びの変化(図1) 学年にかかわらずテレビやゲームは多いようです。小学校低学年のころに多かった外遊びや絵が高学年になると減ります。

低学年が「携帯・スマホ」をあげているのは親の機器だと思われ、家のPCは親の目が届く可能性がありますが、メディアプレイヤー、タブレット、携帯ゲーム機といった端末は、親の目が行き届かない心配があります。

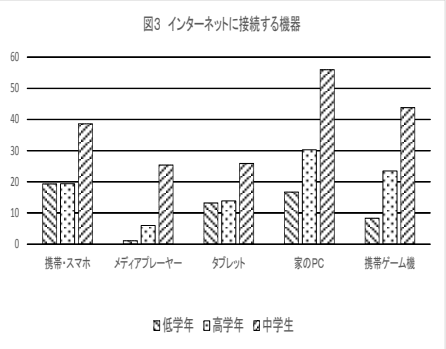
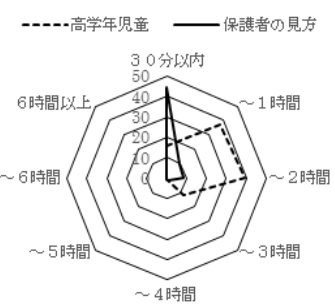
(3) インターネットに接続する機器(図3)



一日のインターネット閲覧時間について、小学校高学年とその親の意識だけ取り上げましたが、親は「家の子は三〇分以内だろう」と思っている、実際は一時間から二時間やっています。この傾向は、親が家にいると思われる休日でも同様です。

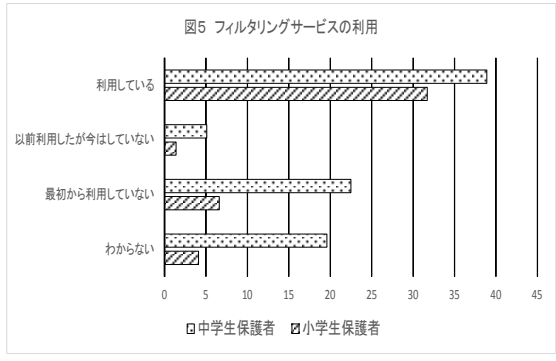
(4) 保護者と子どもの意識のずれ(図4)

図4 一日のインターネット閲覧時間(平日)



電子メディア(テレビ、ビデオ、テレビゲーム、携帯ゲーム、パソコン、携帯電話、スマートフォンなど)に接続する時間を減らすこと。電子メディアを排除するのではなく、電子メディアと上手に触

3 豊科東小学校の取組 本校では、昨年度からアウトメディアの取組をすすめています。アウトメディアとは、次のようなことです。



(5) フィルタリングサービスの状況(図5) フィルタリングサービスを利用しているのは、中学生保護者で三八・九%、小学生保護者で三一・七%と、共に三〇%台です。

⑦その他(自分で考えたことを書く) (二六%)

⑥一日中テレビ・ビデオを見ない。ゲーム・スマホもしない。(〇%)

⑤テレビ・ビデオ・ゲーム・スマホは、あわせて一日三〇分までにする。(七%)

④テレビ・ビデオ・ゲーム・スマホは、あわせて一日一時間までにする。(二六%)

③テレビ・ビデオ・ゲーム・スマホは、あわせて一日二時間までにする。(二五%)

②夜九時をすぎたら、テレビを消す。ゲーム・スマホをしない。(三九%)

①食事中はテレビを消す。スマホをしない。(四三%)

今年、健康週間(六月二十日〜二十四日)で「アウトメディア」にチャレンジしました。子どもたちは、例示された次のコースから、自分の生活にあったものを一〜二個選択します。()は、五・六年生の選択状況です。

(参考) 北海道教育委員会 ホームページ

また、誰とチャレンジするかも決めます。()は、五・六年生の選択状況です。

- ①自分だけで (六四%)
- ②きょうだいで (二〇%)
- ③親子で (一一%)
- ④家族みんなで (三%)
- ⑤その他 (〇%)

六年生のチャレンジの結果をみてみます。子どもの意識として、「チャレンジは成功しましたか」の問いに、約六〇%が肯定的な回答をし、「チャレンジしているときは、楽しく過ごせましたか」の問いには、約六〇%が肯定的な回答をしました。一方、保護者の意識として、「お子さんの生活で変化は見られましたか」の問いに、約五〇%が肯定的な回答をしてい

子どもたちの感想には、次のようなものがありました。

- ・アウトメディアをやる前はテレビを見ながら宿題をして、あまり集中できなかったけど、アウトメディアチャレンジ中は、テレビの時間を決めたので、宿題と分けて集中して勉強ができ

た。このことで、学校の授業で発言する回数が増えたと思う。

- ・家族と話す時間が増えたり食べるのが早くなったたりした。

- ・アウトメディアをしている時は、楽しく家族とおしゃべりできたので、もつとこれからも続けられたらいいなと思った。

- ・平日はチャレンジが成功できたけど、休日に入ると見たいテレビが食事中にやっていたのを見ちゃった。宿題中にテレビを消してやるのができた。

- ・ゲームは楽しいので、やっぱりやらない時はつまらなかった。

また、保護者の感想には、次のようなものがありました。

- ・土日に家族と過ごす時間を長くとることで、自然とテレビやゲームから離れた。

- ・テレビは、他の人が見ていると見たくなくなってしまいうので、家の中みんなで協力しないといけないと思う。
- ・これからも意識して続けてほしい。

4 今年度の地域学校保健委員会から

(1) グループワークでは次のようなことが話題になりました。

- ・ゲームにはルールを決めているが、テレビにはないので、ルールが必要。
- ・親と一緒にテレビを見ることで、共通の話題をもち、大切な会話の時間にする。
- ・食事の時にテレビを消すなど大人からアウトメディアに取り組む。
- ・大人もフィルタリングなどの勉強をしていく。
- ・子ども任せにせず、親も意識していく。
- ・ウノやカルタなど、電子メディア以外のものを家族で楽しむ機会をつくる。
- ・家庭のルールを友だちに知ってもらうことも大事。

- ・最後に三校の代表者で今後の方針を確認しました。
- ・十二月中旬に各校でアウトメディアチャレンジウィークを設ける。
- ・各家庭によって事情があるので、家庭毎にどのようなチャレンジをするか決める。
- ・友だちの家庭と違うチャレンジをしているので、互いに紹介し合い、それぞれ頑張れるようにする。

5 分散会で話題にしていたきたいこと

子どもたちをとりまく電子メディアの環境として、次のようなことが言えます。

- ・子どもたちを、電子メディアから完全に切り離すことはできない。むしろ、これからの時代を生きる子どもたちには電子メディアをうまく使いこなす力(メディア・リテラシー)が求められる。
- ・今の小中学生の親の世代も、電子メディアに囲まれて育った世代だと言える。電子メディアに対する危機感が低い事例もある。

そこで、次のことについて、話題にしていきたいと思えます。

テレビやビデオを含めた電子メディアの弊害から子どもたちを守り、親子共に電子メディアと上手につきあっていくにはどうしたらよいか。

地域ぐるみで子どもたちの健全育成を図るという観点から、今日お集まりの様々な立場の皆さんからご意見をいただきました。ですので、よろしく願いいたします。

各分散会の様子

【第一分散会】

子どもたちのつながりの中でゲームや携帯といったメディアが欠かせないものになっていること、その使い方やつきあい方を上手にしていく必要があることが話題になった。大人が知識を持ちよい環境をつくること、子どもに自己判断する力をつけることなど、考えられる手立てがあげられた。親として芯をもって育てていくことが大事という意見もあった。

一方、ほどほどにバランスよくつきあっていくこと、よさも示された。親が子どもにどんな体験をさせたいかを考え、メディアとの関わり方も親子で考えていくこと、大切さもあげられた。

メディア云々よりも、それを媒体として人との関わりを持つていけばよいのではという考えも出された。会話を交わす、折り合いをつけるなど、いろいろな関わりが考えられ、人と人とのつながりを広げていける可能性を感じた。

【第二分散会】

家庭での取り組みとしては、「子どもとゲームをやってよい時間を決めてみる」「夜何時以降は使わないことを決めている」「時々どんなゲームをやっているのか親が確認するようにしている」「スマホを子どもが外へは持ち出さないようにしている」などということが出されたが、友達との関係で難しくかったり、子どもがゲームに夢中になるとなかなかやめさせるのが大変だったりする、という意見も出された。

子どもが自分自身で制限をかけていく力をどうやってつけていくのかについては、「スマホ等をやめるというよりも、それ以外の自然体験等をする機会を作ることが大切ではないか」「家庭の中で話し合う機会をつくるのが大切ではないか」「情報機器等に関する危険性について毎年講演をしてもらっているが、どういう危険性があるかを親子共知ることが大切ではないか」「親や教師も勉強する機会が大切ではないか」「中学生は高校生から、高校生は社会人からというように、ひとつ先の先輩から学ぶことで、先の見通しができるのではないか」などの意見が出された。

メディアを否定するのではない

く、危険のない状況を作り出した、それ以外の活動とのバランスをとったりして、安曇野の子どもたちを大切にしていきたいとまとめられた。



【第三分散会】

まず、自己紹介をふまえ、それぞれの立場から見ると子どもたちとメディアとの関わりの実態について情報交換を行った。その中で、「メディアの中には、連絡手段としてはとても便利な物もあるが、コミュニケーションツールの一つとなってしまうのはどうか」、「メディアの進歩で、子どもたちの目を見て話を聞くという基本的な部分が崩れ始めているのではないか」、「自分の方を見て欲しいとかさみしいとかいった気持ち、子どもたちがゲームやネットを嗜んでいるのではないか」などと語られた。

次に、子どもとメディアをどうやって上手く付き合わせていくか

という点で話し合いを行った。ここでは、子どもだけでなく親も一緒に、親子でメディアと上手く付き合っていくことが必要であり、その方法としては、親もメディアについて勉強し子どもとルールを共有すること、やめた時間に来ることを見つけ、メディアから離れたときの良さを感じられるようにすることなどが挙げられた。ただ頭ごなしに取り上げるのではなく、親が一定の知識を持ち、きちんとメディアと、そして子どもと向き合っていくことが大切だと感じた。

【第四分散会】

スマートフォンを含むメディアのもつ課題として、子どもが誰と何をしているのかわかりにくいこと、メディアの進歩に大人が追いついていけないこと、責任の所在や情報教育のあり方などが出された。また、少子化で近所に遊ぶ子どもが少ないことや、核家族・共働きで家に大人がいないことが、メディアに頼りやすい環境をつくっていることが挙げられる一方、将来役立つので積極的に関わってほしいという考えも出された。

そこで、メディアのみに依存せず、バランスよく付き合っていくために、様々な体験をする機会を積極的に持ちメディア以外の楽し

さを体感させることや、家族の会話を通して情報交換すると共にコミュニケーション能力を養うことなどの考えが出され、家族のつながりを鍵にしながら、学校・地域共に考え合っていくことの大切さが語られた。

【第五分散会】

携帯やスマホは、子ども以上に大人が手放せないでいる現状がある。たとえば、ガソリンスタンドで給油中の様子を見ていても、親がすぐにスマホを取り出しゲームやネットをしているような光景をよく見かける。また、子どもが生まれて父親のゲーム癖がなくなるかと期待していたがほとんど変わらずに夢中になっている。そういう大人の姿を見ているのだから、子供たちもスマホに夢中になるのはやむを得ないかもしれない。一方で良いところもある。携帯のGPS機能で子どもの居場所をつかみ安全を確認することができたり、遊ぶ時間を決めてから親子でゲームを楽しみ話題作りをしたりしていることもある。問題なのはスマホのやり過ぎで家族との関わりが減ること。上手にスマホとつきあい、家族など周囲の人との関わりも大切にしながら健全に成長して欲しいとまとめられた。

参集された方々

- 市教育委員会
- 市PTA連合会
- 地域の実践者
- (子ども会育成会役員・地域コーディネーター・主任児童委員・児童館主任)
- 保育園長
- 市内高等学校教職員
- 市内小中学校保護者
- 市内小中学校教職員

合計 88名

編集後記

「これからは生きていく子どものために」という思いを共有することができた。」と参加された方から感想をいただきました。結論や具体的な方向を見いだすまでには至りませんでした。子どもたちを取り巻く環境について、様々な立場の方が課題を共有する場、情報交換をし合う場として大変意義のある会となりました。共有した課題について、各校やPTA、地域でそれぞれの実状に合わせた取り組みを考えるきっかけとなつていただければと思います。参加者の皆様に感謝しつつ、会の報告とさせていただきます。